



ドル高への協調における新たな国際経済の変化

令和7年4月15日

黒田インターナショナルコンサルティング LLC

黒田 毅

ドル高への国際的協調は、アメリカの貿易赤字の解消への国際的な合意として、予測できるものである。しかし国際的な産業の分担は、これら既存産業構造において、アメリカへの向上の設立の要求とともに、早急な貿易赤字の解消は不可能であるかもしれない。

またこれら貿易赤字の原因の一つは、国際金融センターとしてのアメリカの現実があり、これら資本の流入が、アメリカの豊かさを生み、それらの購買が、貿易赤字を与えるものであることは正しいのである。

これらは新たなアメリカの自国経済の再生が、向上の誘致とともに、その大きな消費市場とともに、自国経済の育成を求めるものであることは理解できる。

これらは国際経済の新たな枠組みを将来において与えるものであることは理解できるものである。

また自由貿易システムの転換は、貿易の平等性など、新たな合意と基準が提示されるものである。

これらは国際的な分業システムが存在し、それらの先端性においてヒエラルキーを形成するものである。

これら国際経済の枠組みの転換は、今回のトランプ大統領の関税政策において、与えられたものであり、これらは国際資本におけるその資金の移動などともに、今後新たな国際経済の枠組みを提案することは存在するかもしれない。

これらは自由貿易が2国間の合意において可能とすること、自国産業の保護と育成に対する経済政策の方針が必要なこと、為替や金利政策の適切化などは、自国の経済政策への新たな要求としてその必要性を生むものである。

これら新たなグローバル経済の枠組みは、自国系税の運営へ新しい判断と視点を今後要求されると判断できるものである。